

第 63 回 東葛しぜん観察会研修会

どう残す？ どう作る？ 調節池の自然環境

高野満里子（鎌ヶ谷市）

日時：2012年6月19日（火）午前10：00～12：00

場所：大柏川第2調節池予定地の湿地（鎌ヶ谷市、市川市、船橋市の市境付近）

担当指導員：多紀晶子、高野満里子、現地案内：多紀清美

地元の一般参加者：遠藤、森田2名+多紀

合計 17名

今日は夕方から台風が到来するとの予報がある中17名の参加者があり、地元の多紀さんの案内で貴重な湿地が残る調節池予定地を案内していただきました。その場所は鎌ヶ谷市、市川市、船橋市の3つの市の境にある場所で調節池としての工事が始まろうとしているところです。中沢川、二和川、根郷川と3つの川の流れが集まるところでもあり、それらがひとつになって大柏川となり、真間川・江戸川へと合流し、東京湾へと注ぐ上流となっているところです。湿地の中には小川やハンノキ林があり、環境指標となるコガネグモも観察できました。このような場所にはアカガエルが産卵する可能性もあり、その為には水路を人工物ではなく自然を活かした「多自然川づくり」に即したものにしたい等の意見が出されました。

現在、市川緑の市民フォーラム、かわ・水みどり、囃子水の自然を育てる会、真間川の桜並木を守る市民の会、緑のみずがき隊、等のグループと個人が「大柏川第2調節池連絡会」として情報交換、県（真間川改修事務所）との連絡を行っているとの事です。貴重な湿地を残すにはどうしたらいいのか？ また、湿地をどういう形で残すのが最適か、そこに生活する小さな生きもの達を守る為にはどういう形で残せばいいのか…等々皆で考え一市民として声を上げる事も大切だという事を実感しました。また、小川をいくつか飛び越えましたが、皆さんが手を貸してくださりすばらしいチームワークでした。

